

(トップページ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/> )

(MENAランキングシリーズ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/MENAranking.html> )

マイライブラリー:0242

(注)本稿は 2012 年 9 月 20 日から 10 月 5 日まで 6 回にわたり「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2012.10.6  
前田 高行

## MENA(中東・北アフリカ)22カ国の「世界競争力ランキング」(2012-2013 年版)

(MENA なんでもランキング・シリーズ その15)

| 目次                          | 頁 |
|-----------------------------|---|
| 1. 「世界競争力レポート」について          | 2 |
| 2. MENA16カ国の世界競争力ランキング      | 2 |
| 3. 過去6回の順位の推移               | 3 |
| 3-1 MENA 各国の順位の変遷(第7回～第12回) | 3 |
| 3-2 主要3カ国と米国・日本・中国の比較       | 4 |
| 4. MENAの分野別競争力              | 4 |
| 5. 主要国の分野別競争力(レーダーチャート)     | 7 |

中東北アフリカ諸国は英語の Middle East & North Africa の頭文字をとって MENA と呼ばれています。MENA 各国をいろいろなデータで比較しようと言うのがこの「MENA なんでもランキング・シリーズ」です。「MENA」は日頃なじみの薄い言葉ですが、国ごとの比較を通してその実態を理解していただければ幸いです。なお MENA の対象国は文献によって多少異なりますが、本シリーズでは下記の 19 の国と 1 機関(パレスチナ)を取り扱います。(アルファベット順)

アルジェリア、バハレーン、エジプト、イラン、イラク、イスラエル、ヨルダン、クウェイト、レバノン、リビア、モロッコ、オマーン、パレスチナ自治政府、カタール、サウジアラビア、シリア、チュニジア、トルコ、UAE(アラブ首長国連邦)、イエメン、

これら 19 国・1 機関をおおまかに分類すると、宗教的にはイスラエル(ユダヤ教)を除き、他は全てイスラム教国家であり OIC(イスラム協力機構)加盟国です。なおその中でイラン、イラクはシーア派が政権政党ですが、その他の多くはスンニ派の政権国家です。また民族的にはイスラエル(ユダヤ人)、イラン(ペルシャ人)、トルコ(トルコ人)以外の国々はアラブ人の国家であり、それらの国々はアラブ連盟(Arab League)に加盟しています。つまり MENA はイスラム教スンニ派でアラブ民族の国家が多数を占める国家群と言えます。

第15回のランキングは、「世界経済フォーラム」(World Economic Forum, 略称 WEF)が発表した「Global Competitiveness Report 2012-2013」(世界競争力レポート)について MENA 諸国をとりあげて比較しました。

\* WEF ホームページ:

<http://www.weforum.org/reports/global-competitiveness-report-2012-2013>

## 1. 「世界競争力レポート」について

「世界競争力レポート(Global Competitiveness Report)」は、毎冬スイスで開催される「ダボス会議」の主催者として世界に名を知られている「世界経済フォーラム」が2001年から毎年発表しているレポートであり今回で第12回目となる。第1回レポートの対象国は75カ国であったが、その後対象国は増え今回は144カ国となっている。MENA については今回は昨年までランク付けされていたシリア及びチュニジアが外れ、一方リビアが2年ぶりに復活したため対象国は昨年より1カ国減り16カ国となっている。評価対象外となっている国は上記シリア、チュニジアのほかイラク及びパレスチナ自治政府である。

このランキングは、一般に入手可能な公表データと、WEF が報告対象各国の提携機関とのネットワークで行っている包括的年次調査「エグゼクティブ意見調査」の結果から算出されている。ちなみに日本の提携機関は慶応大学、経済同友会である<sup>1</sup>。

「世界競争力レポート」の総合的な競争力ランキングはコロンビア大学のザビエル・サラ＝イ＝マーティン教授が開発し2004年に導入された世界競争力指数(Global Competitiveness Index, GCI)が用いられている。GCIは競争力に関する12の分野をもとに設計されており、世界の国々のすべての発展段階における競争力の全体像を示している。12分野とは、①制度機構(Institutions)、②インフラ(Infrastructure)、③マクロ経済の安定(Macroeconomic stability)、④保健および初等教育(Health and primary education)、⑤高等教育及び訓練(Higher education and training)、⑥商品市場効率(Goods market efficiency)、⑦労働市場効率(Labor market efficiency)、⑧金融市場の洗練度(Financial market sophistication)、⑨技術的即応性(Technological readiness)、⑩市場規模(Market size)、⑪ビジネスの洗練度(Business sophistication)及び⑫イノベーション(Innovation)である。

## 2. MENA16カ国の世界競争力ランキング

(表[http://members3.jcom.home.ne.jp/areha\\_kazuya/15-T01.pdf](http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/15-T01.pdf) 参照)

2012-2013年競争力ランキングではMENA19か国のうち16カ国がランク付けされている。トップはカタールであり、同国は世界144カ国の中でも11位に評価されている。カタールに続くMENAの2位はサウジアラビアで世界順位18位、MENA3位はUAE(世界24位)、4位イスラエル(同26位)である。以下世界30位台にオマーン(世界32位)、バハレーン(同35位)、クウェイト(同37位)の3カ国が続いている。これら MENA 上位7カ国のうちイスラエルを除く6カ国は GCC(湾岸協力機構)の加盟国である。GCC 諸国は石油・天然ガスの富により MENA 域内では突出した競争力を持

っていることがわかる。

これに続くのがトルコ(世界43位)、ヨルダン(同64位)、イラン(同66位)、モロッコ(同70位)であり、以上の11カ国が全世界144カ国中の上位グループに入っている。なお MENA16カ国の平均順位は62位であり、MENA 地域の競争力は世界平均を少し上回っていると言えよう。

因みに世界ランクの1位はスイスであり、これにシンガポール、フィンランド、スウェーデン、オランダ、ドイツが続き米国は7位、日本は10位である。その他韓国は世界19位でサウジアラビアの次に位置し、中国はイスラエルとオマーンの間の世界29位である。またインドはトルコより低い59位、ロシアはイランに次ぐ67位である。

### **3. 過去6回の順位の推移**

#### **3-1 MENA 各国の順位の変遷(第7回～第12回)**

(表[http://members3.jcom.home.ne.jp/areha\\_kazuya/15-T02.pdf](http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/15-T02.pdf) 参照)

第7回(2007-08 年)から第12回(2012-13 年)までの競争力ランクの推移を見ると、第7、8回の MENA トップはイスラエルであり、世界順位は17位及び23位であった。しかし第9回以降今回の第12回までは4年連続してカタールがトップである。さらにこの間のカタールの世界順位は22位→17位→14位→11位と毎年アップしており、トップテン入りが目前である。サウジアラビアも第7回以降躍進が著しく世界順位は35位→27位→28位→21位→17位と着実に順位を上げてきた。但し今回は1ランク下がり18位であった。

UAE は第7回(2007-08 年)から第9回(2009-10 年)までは37位→31位→23位と急速に世界順位を上げ第9回にはカタールに次ぎ MENA2位になった。しかしその後は25位(第10回)→27位(第11回)→24位(今回)と20位台で停滞している。イスラエルも第8回以降は世界20位台で浮沈を続けており、MENA の順位もかつてのトップから今回はカタール、サウジアラビア、UAE に次ぐ4位にとどまっている。

GCC 加盟国の中でもクウェイトは第7回は MENA の二番目(世界30位)であったがその後は35位→39位→35位→34位→37位と長期的に低迷している。また第7回に世界43位であったバハレーンは翌年に37位にアップしたものの、その後は停滞している。同国は昨年国内で大規模な騒乱事件が発生、現在も治安が安定しているとは言えず、外国企業が同国から撤退或いは事業を縮小するなどの影響が出ている。オマーンは過去6回の世界順位は42位→38位→41位→34位→32位→32位である。第9回までは順位が停滞し GCC6カ国の中で最も低かったが、第10回以降は上昇傾向にあり、現在はクウェイト及びバハレーンよりも上である。このように GCC6カ国はカタール、サウジアラビア及びオマーンが競争力を高め世界順位を上げているのに対してクウェイト、バハレーンは低落又は停滞傾向にある。

その他の国では地域の大国であるエジプトの世界順位は77位→81位→70位→81位→94位→107位と最近4年間で急激に落ち込んでおり、特に今回は100位以下の低い地位に甘んじてい

る。またチュニジアは前回急落し、今回はランク対象外となっている。両国とも昨年初め長期にわたる独裁政権が倒れ、不安定な状態になったことが順位を大幅に下げた理由と考えられる。今後新しい政治体制が安定し競争力を回復できるか否かは未知数である。

### 3-2 主要3カ国と米国・日本・中国の比較

MENA の経済大国であるサウジアラビア、トルコ、エジプト3カ国と米国、日本、中国の過去6回の競争力順位を比べてみる。

(図[http://members3.jcom.home.ne.jp/areha\\_kazuya/15-G01.pdf](http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/15-G01.pdf) 参照)

米国は第7回(2007-08年)及び第8回(2008-09年)の順位は世界トップであったが、その後は2位→4位→5位→7位と毎年順位を下げている。日本は8位→9位→8位→6位→9位→10位であり第11回(2010-11年)に6位まで上昇したものの、今回は過去6回で最も低くベストテンの最後に留まっている。

サウジアラビアと中国は第7回ランキングでは共に30位台半ば(サウジアラビア35位、中国34位)であったが、両国は2年後にはそれぞれ28位と29位にあがった。その後サウジアラビアの順位は大きく躍進し前回及び今回は20位以内に入っている。一方中国は第9回以降は29位→27位→26位→29位と20位台後半を前後している。

トルコとエジプトの第7回ランキングはそれぞれ53位、77位であり、エジプトはMENAの平均値と比較するとかかなり下回っていた。エジプトの競争力は第9回(2009-2010年)に70位まで上昇したもののその後は70位→81位→94位と急激に順位を下げ、今回はついに107位と100位以下に陥落している。同国はムバラク政権末期から国際競争力が落ちていたが、昨年同政権が崩壊しイスラム穏健派が国政を握った後も経済の立て直しに成功しておらず競争力は回復するどころかむしろ落ち込んでいる。

一方トルコは第8回(2008-2009年)から第10回(2010-2011年)まで60位台に低迷した後、前回(59位)及び今回(43位)と急激に競争力をつけている。特に今回はMENAの世界平均順位が前回の58位から62位に落ちているにもかかわらず同国が世界順位を上げていることは特筆に値する。

## 4. MENAの分野別競争力

冒頭に触れた通り世界競争力指数は「制度機構」から「イノベーション」まで12の分野について世界144カ国を順位付けている。

(表[http://members3.jcom.home.ne.jp/areha\\_kazuya/15-T03.pdf](http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/15-T03.pdf) 参照)

### (1) 制度機構(Institutions)

MENAトップはカタールで世界順位は4位と非常に高い。同国に次ぐのはUAE(世界12位)、サウジアラビア(同15位)、オマーン(同17位)、バハレーン(21位)であり、これらGCC諸国は世界

的に見ても高い水準である。但し同じ GCC 構成国でもクウェイトは世界51位であり6カ国の中では見劣りがする。

(参考:日本22位、米国41位、中国50位)

(2) インフラ(Infrastructure)

UAE は世界8位であり非常に評価が高い。これに次ぐのがサウジアラビア26位、バハレーン29位、カタール31位であり、MENA 諸国の中では UAE が飛び抜けている。

(参考:日本11位、米国14位、中国48位)

(3) マクロ経済環境(Macroeconomic environment)

カタールが世界2位で以下クウェイト(4位)、オマーン(5位)、サウジアラビア(6位)、UAE(7位)である。GCC の5カ国が世界のベストテンに入っている。これら各国に続くのがバハレーン(29位)であり、MENA では GCC が上位を独占している。GCC6カ国は国家財政の大半を石油収入に依存しており、いずれも絶対君主制国家という共通点がある。原油価格が高い水準を保ち、さらに昨年 MENA に吹き荒れた「アラブの春」の民主化運動の中でこれら王制国家が(バハレーンを除き)動揺が少なかったことが評価されている。これに対してイスラエル(64位)・パレスチナ(ランク無し)の周辺国であるヨルダン(112位)、レバノン(135位)、エジプト(138位)などは順位が低い。

(参考:中国11位、米国111位、日本124位)

(4) 保健および初等教育(Health and primary education)

この分野では世界23位のカタールがMENAトップである。これに次ぐのはレバノン(32位)、UAE (37位)、バハレーン(38位)である。一方、モロッコ(81位)、エジプト(94位)、リビア(121位)、イエメン(122位)など世界ランクの低い国も少なくなく、MENA 諸国の間にはかなりの格差がある。

(参考:日本10位、米国34位、中国35位)

(5) 高等教育及び訓練(Higher education and training)

MENAトップはイスラエル(世界28位)である。これに次ぐのがカタール(同33位)、バハレーン(34位)、UAE(37位)、サウジアラビア(40位)である。モロッコ(101位)、リビア(103位)、アルジェリア(108位)、エジプト(109位)、イエメン(139位)の5カ国はこの分野の順位が100位以下である。

(参考:米国8位、日本21位、中国62位)

(6) 商品市場効率(Goods market efficiency)

この分野では UAE が世界5位でMENAのトップである。UAEに続くのがカタール(10位)、サウジアラビア(14位)、バハレーン(16位)でGCCの4カ国が上位を占めている。同じGCC加盟国であるがクウェイトは世界90位と非常に低い。地域の大国トルコ、イラン、エジプトの順位はそれぞれ38位、98位、125位である。

(参考:日本20位、米国23位、中国59位)

(7) 労働市場効率(Labor market efficiency)

世界7位の UAE が MENA トップである。カタール(世界14位)、バハレーン(同21位)、オマーン(同36位)がこれに続いている。しかし MENA のこの分野における世界順位は概して低く、アルジェリア(144位)、エジプト(142位)、イラン(141位)、イエメン(138位)、リビア(137位)、トルコ(124位)、モロッコ(122位)など最低クラスの国が多い。このため MENA の平均順位は89位であり12の指標の中では最も低い。

(参考:米国6位、日本20位、中国41位)

(8)金融市場の洗練度(Financial market sophistication)

MENA ではカタールが最も洗練された金融市場と評価されており世界14位である。そのほかではイスラエル(世界17位)、バハレーン(18位)などが世界競争力の高い国とされている。湾岸では最も金融活動が活発とされている UAE は世界25位である。

(参考:米国16位、日本36位、中国54位)

(9)技術的即応性(Technological readiness)

この分野では世界ランク27位のカタールが MENA トップである。続いてイスラエル(世界29位)、UAE(同32位)、サウジアラビア(35位)、バハレーン(39位)と続いている。一方、イラン、アルジェリア、リビア及びイエメンは世界100位以下である。

(参考:米国11位、日本16位、中国88位)

(10) 市場規模(Market size)

市場規模の競争力ランクではトルコが世界15位、イラン18位、サウジアラビア24位、エジプトが29位である。この指標は人口規模と密接に関係しており、MENA の人口大国が上位に並んでいる。これに対して UAE(44位)、カタール(58位)、クウェイト(61位)などの湾岸産油国は一人当たりの購買力は高いが、人口の絶対数が少なく、市場規模の競争力は高くない。

(参考:米国1位、中国2位、日本4位)

(11)ビジネスの洗練度(Business sophistication)

カタールが MENA 1位(世界11位)であり、これに続くのが UAE(15位)、イスラエル(16位)、サウジアラビア(25位)である。一方、イラン(93位)のように経済制裁を受けている国々は、欧米の経営ノウハウの流入が遅れており、洗練度が低く競争力は見劣りすると評価されている。

(参考:日本1位、米国10位、中国45位)

(12)イノベーション(Innovation)

イスラエルは世界3位であり、技術先進国としての評価が定着している。同国に次ぐ MENA 2位はカタール(世界19位)、以下 UAE(28位)、サウジアラビア(29位)であり、MENA 1位のイスラエルと2位以下の格差は大きい。またエジプト、レバノンなどは100位以下である。また GCC 加盟国の中で

クウェイトは108位と際立って評価が低い。アラブ諸国はイノベーション分野では後進地域と見なされているようである。

(参考: 日本5位、米国6位、中国33位)

## 5. 主要国の分野別競争力(レーダーチャート)

(図[http://members3.jcom.home.ne.jp/areha\\_kazuya/15-G02.pdf](http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/15-G02.pdf) 参照)

MENA の主要5カ国(エジプト、トルコ、サウジアラビア、イラン及び UAE)と日本、中国の分野別競争力を比較してみる。ここではこれら7カ国を総合世界ランクが近い国同士で3つのグループに分け、レーダーチャート図によって各国の競争力の特徴を比較検討する。

レーダーチャート図は最も外側が世界順位1位であり内側の中心は世界150位である。また最上段の総合順位以下時計周りの1から12の数字は各分野を示している。各分野の世界順位を結ぶ輪が各国の状況である。レーダーチャートの輪が外側に広がっているほど世界での順位が高く、また輪の形が円に近いほど各分野で平均した競争力があることを示している。

まず日本(総合世界10位)とサウジアラビア(総合世界18位)を比較すると、「3. マクロ経済の安定性」がサウジアラビアの世界6位に対して日本は124位の低位にとどまっている。サウジアラビアが無借金体制であるのに比べ、日本は国債の対 GDP 比率が世界で最も高い 200%近くに達することが主な理由であろう。一方、「4. 保健及び初等教育」(日本10位、サウジアラビア58位)或いは「7. 労働市場効率」(日本20位、サウジアラビア59位)などのように人材面では日本が優れている。そして「10. 市場規模」、「11. ビジネスの洗練度」、「12. イノベーション」の分野では日本は世界のトップレベルにあり、サウジアラビアは20位台にとどまっている。

次に UAE と中国を比べると総合順位は24位、29位と拮抗している。12項目のうち10項目で中国の順位は UAE を下回っているが、「10. 市場規模」では UAE の44位に対し中国は世界2位であり大きく差が開いている。

トルコとイランとエジプトは共に人口7千~8千万人を有する MENA の大国である。3カ国の総合ランクはトルコ43位、イラン66位、エジプト107位でありエジプトの競争力は他の2カ国よりかなり低い。「1. 制度」、「2. インフラ」の面では3カ国に大きな差は無いが「3. マクロ経済の安定性」ではトルコ55位、イラン57位に対してエジプトは138位と大きく劣っている。「7. 労働市場効率」はトルコ124位、イラン141位、エジプト142位と3カ国とも低い、その一方「10. 市場規模」ではいずれも世界20位前後の高いランクである。

(完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行

〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601

Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642

E-mail; [maeda1@jcom.home.ne.jp](mailto:maeda1@jcom.home.ne.jp)

---

<sup>1</sup> WEF レポート Partner Institute より

<http://www.weforum.org/content/pages/partner-institutes-2012-2013>